



# 「好きに、挑む」ことができる未来の学校の創造

## 東京学芸大学附属竹早中学校



### 1. 竹早中学校の概要

本校の教育の理念である「自ら求め、考え、表現し、実践できる生徒」ならびに「他人の立場や意志を尊重できる、視野の広い生徒」の育成を柱として、竹早地区では東京学芸大学とともに産官学連携プロジェクト「未来の学校 みんなで創ろう。プロジェクト」の一環として、「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」に取り組んでいます。

### 2. 「多様性の教育」の研究

本校では、2018年度から取り組んできた「多様性の教育」の研究を深化拡充させるために、生徒自らの発案に基づく活動（通称「Dプロジェクト」）を開発し、実践しています。また、その実践においてどのような学びが実現するのかを研究し、活動を推進するための学校環境の実装化を進めています。そして、共通のプロジェクト・ビジョン「好きに、挑む」を実現する未来の学校モデルの開発に取り組んでいます。

**“やりたい！”を尊重する教育**

**主体性と創造力の育成**  
 ・子ども自身の意思や発想を尊重し、自ら考えて行動する力や創造力を伸ばします。

**教師は伴走者**  
 ・教師は指導者ではなく支援者として、子どもの挑戦や成長を温かく見守ります。

**失敗を肯定し挑戦を促す環境**  
 ・失敗を学びと捉え、子どもが安心して新たな挑戦に取り組める環境を整えます。

**竹早中学校 Dプロジェクト**

### 3. やりぬく力を育てる「Dプロジェクト」の研究

Dプロジェクトは、主体性の育成と多様性を尊重する意識の醸成をねらいとしたプロジェクト型活動です。Dプロジェクトにおいては、「子どもも教師も、誰もがワクワクできる学び」を具体化するような教育を、9教科11領域それぞれの授業に加えて実施しており、本校の総合学習や課外活動における教育実践の特徴を際立たせるものとなっています。生徒たちは周囲と協働して活動することを通して、自分の思いや願いの実現に挑戦していきます。

**挑戦が未来を創る**

**考えを伝える力**  
 自分の意見を自信を持って表現し、周りに良い影響を与えます。

**協力する力**  
 仲間と協力し合い、チームで目標達成や問題解決を目指します。

**失敗からの学び**  
 失敗を経験し、反省しながら成長の糧とします。

**社会とのつながり**  
 社会との関わりを通じて広い視野を持てるようになります。

**Dream** 夢やワクワクを感じる。  
**Decide** 自分で判断・決定する。  
**Develop** 成長・発展する。

**竹早中学校 Dプロジェクト**

- Dream** (主に積極性、主体性、興味関心に関わる概念)
- Decide** (主に主体性、思考・判断・表現に関わる概念)
- Develop** (発展性、成長、学びに関わる概念)

この活動は、調べ学習を通して様々な知識を獲得するだけでなく、問題発見・提起能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の資質を育成することも目指しています。また、その成果を広く社会に還元することもねらいとしています。本校の特色である「主体性」を育む教育によって、革新的なアイデアを実現・検証するサイクルが生まれ、従来の教育改革が陥りがちだった理論と実践の乖離という問題を克服する、効果的な仕組みと長期的なカリキュラムとして結実していくことが期待できると考えています。

**鉄道プロジェクト2024年度**  
 柴崎海未空、齋藤羽衣、内田悠樹、小林樹生、大野朝、鈴木悠介、小林聖、阿部雅紀、黒羽蓮汰、青木優一、橋山大希、中野高。

**1 実現したい思い**  
 生活の上でたくさん使う鉄道について、もっと魅力を伝えていきたい！  
 社会問題にもなっているマナーの悪い乗り鉄からのイメージ改善を目指す。

**2 プロジェクトの目標や目的**  
 ①鉄道の魅力を伝えたい  
 ②鉄道の利便性を伝えたい  
 ③鉄道の悪いイメージを払拭したい  
 ④鉄道ファンへの印象を良くしたい

**3 プロジェクトの展開**  
 文研にて一般の人へのクイズ大会の実施、プレゼンの実施、パネルールの展示、フォトコンテストの実施を行い、鉄道の魅力を校内で発信した。  
 →校内のみならず、外部にも発信を始めている。  
 X(Twitter)やYoutube、InstagramなどのSNSを用いて発信するの一手だが、種類点もあるためまた検討段階にある。

**4 手段**  
 外部での演説や竹早校内のイベントを開催するなど  
 グッズ作成の企画

**5 昇ってきたもの**  
 鉄道に興味を持つ人が少しずつ増えてきた。それによって、もっと深く鉄道について知ることができた。そこから、もっとみんなに知ってもらうための企画を考え始めた。

**6 これまでの自分たちの活動の評価・振り返り**  
 テストも重なり、思うように進まない時があった。優先順位を決めてやるというのでも大切にしていきたい。そうすれば、時間がなくてももっと計画や準備を進められると思う。

**7 今後の見とおしと取り組みたいこと**  
 3月程度に附属幼稚園、附属小学校への演説と鉄道グッズの配布をする。  
 放送委員会とコラボして屋外の放送でクイズ大会をする。